康重石韓国観光公社東京支社長

アフメト・シャラ駐日コソボ大使

ミシグドルジ・ドルジハンド
モンゴル旅行業協会日本委員会会長

要人往来

モンゴル要人のJATA訪問が活発です。昨年10、12月号に続き、今年も4、5月号と連続登場。モンゴルもかつてのような辺境デスティネーションというイメージはずいぶん薄らぎました。モンゴル底上げのカギを握る冬対策も業界との協働でしっかりと進めていただけることでしょう。

クラウディア・ルイス・マシエウ
メキシコ観光大臣

アンドリス・オゾルス・ラトビア
投資開発公社長官

ヒシャム・エルゼメー駐日エジプト大使（中央、菊間会長の右）

日韓の交流人口を700万人に

韓国　3月15日（金）

康重石韓国観光公社東京支社長

菊間会長と懇談し、「両国間の観光交流拡大に取り組んでいきたい。現在ある阻害要因を乗り越えるために、具体的な企画を立て、JATAとの協力関係のもとビジネスや地方発旅行を活性化すれば、両国間の交流が700万人までに増加させることができるでしょう」と話し、菊間会長も「両国間には観光交流拡大のポテンシャルがあり、共通目的の達成のために、これからも協力していきたい」と話しました。

「冬のモンゴル」の商品開発について意見交換

モンゴル　4月2日（火）

ミシグドルジ・ドルジハンド・モンゴル旅行業協会日本委員会会長

大相撲横綱の白鵬を観光大使にしてのプロモーション展開や冬のモンゴルの商品開発について中村理事長らと意見交換。「冬のモンゴル」の促進については、覚えやすいイメージを打ち出し、冬にFAMツアーの実施や最新情報を提供いただければプラスの効果に繋がるでしょう」と中村理事長。

DS参加でJATAの協力を要望

メキシコ　4月8日（月）

クラウディア・ルイス・マシエウ・メキシコ観光大臣

メキシコ政府の新しい観光開発方針について言及したほか、JATAデスティネーション・スペシャリストへの参加についてJATAの協力を要望。長谷川局長は、メキシコ政府観光局の日頃の協力に謝意を述べるとともに、日本人観光客の増加策について新たな観光地の紹介、直行便の増加、さらなる旅行業界との関係強化などが必要と話しました。

西バルカン半島5ヵ国を共同で観光促進

コソボ　3月18日（月）

アフメト・シャラ駐日コソボ大使

中村理事長を訪問し、コソボの観光促進について、「西バルカン半島の諸国はまだ日本人によく知られていないので、今後、コソボ、マケドニア、アルバニア、ボスニア、モンテネグロの5カ国のPRチームを結成し、共同で観光促進をしていきたい」と意欲を示しました。

安心して送客できる環境づくりを

エジプト　4月5日（金）

ヒシャム・エルゼメー駐日エジプト大使

菊間会長と意見交換。エジプトの情勢について、現在はカイロでデモがあっても、日本人が訪れる観光地は安全。それを確認するために、視察団の派遣について言及したのに対し、菊間会長は、エジプトの観光地としての安心・安全のイメージの改善・促進、広範囲のプロモーション活動の実施、観光客のための国内保険制度など、旅行会社が安心して送客できる環境づくり、などを要望しました。

チャーターフライトの取り組みを強化

ラトビア　4月11日（木）

アンドリス・オゾルス・ラトビア投資開発公社長官

日本人観光客の需要拡大について、今年は5年に一度のダンス・フェスティバルが開催される年でもあり、直行便がない現在、当面はバルト航空によるチャーターフライトの運行による取り組みを強化する意向を示したのに対し、JATA佐々木顧問はチャーターに関する情報や商品造成のためにバルト航空の幅広いネットワークについての最新情報を旅行会社に提供してほしいと応じました。